

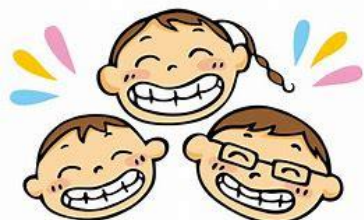
令和5年度
学校便り

大野路

令和5年12月20日

第439号

高岡市立福岡小学校



「表情」の大切さ

「あ～、そうやったんや!」、「ほんとや!分かった!」

子供たちが授業中にこのようにつぶやくことがあります。考えこんでいた顔がぱっと明るくなり、自然と子供たちの口からこのような言葉が出ると、教師としてやりがいや達成感を味わうことができます。

また、「先生、聞いて!」と子供たちが休み時間に教師の周りを囲んで会話をしている姿をよく見ます。子供たちの目は生き生きとし、少しでも先生に話を聞いてもらおうと前のめりになっている学級もあります。

教師として学校で生活していると当然の光景のように思えるのですが、なぜかこのような様子を目にすると、最近新鮮に感じるがあります。

その理由は、マスクで塞がれていた教師や子供たちの「表情」が開放されたからではないかと思います。コロナ禍でマスク着用が当たり前となっていました、少しずつ緩和されました。子供たちが笑顔で話合ったり、驚いたり、くやしがりたりする光景が学校に戻ってきました。

私が小学生だった時、友達や先生が笑ってくれることがうれしくて他愛もない話をしたり、ふざけてみたりしたことを今でも覚えています。当時、もし周りの人たちの反応が乏しかったり、笑いが起きなかったりしたら自分はどうか感じていただろうと考えると、マスクで表情が分かりにくい中で生活していた子供たちはすごいと思いました。

また、教師となり、尊敬する先輩から、「教師は役者。子供たちの前では喜びも悲しみも大きく表現しなければいけない」とアドバイスをいただきました。ある日、あまり自分から進んで発表することのないA君が挙手し、考えを発表しました。「そんな考えがあったか!すごすぎる!」と人一倍驚いた表情で反応すると、A君は照れくさそうに、でも、とてもうれしそうな表情を浮かべました。このことをきっかけにA君は進んで発表するようになりました。先輩が教えてくださったことはこういうことかと実感しました。

マスク生活が緩和されてから、子供たちの表情が豊かになりました。教師や友達の表情を見ながら、子供たちは、相手の気持ちを想像したり、どう行動しようか考えたりしています。子供たちの成長には、周りの人たちの「表情」が大切だと改めて気付きました。感染症予防等でマスクを外せないこともあるかと思いますが、そんな時は、家庭や地域でマスクを外した際に、子供たちの表情をよく見てあげてください。また、保護者や地域の皆様も、子供たちの話を聞く際は、1.5倍表情を豊かに聞いてあげること、子供たちの満足感や「もっと話したい!」と思う気持ちが高まります。子供たちの表情がさらに豊かになるよう、これからも自分自身が表情を豊かにしていきたいです。

